

OS91DF 4基搭載、全備26kgの大型スケール機

スタンバイOK



表紙の機体

テクニカル・データ 全長全幅とも3.5m 全備重量26kg (バラスト含)
エンジン OS91VR-DF × 4 ダクトファン・ユニット/ダイナマックス
燃料マッハ1 (30%ニトロ) R C 装置フタバFF-7 (サーボ数10)



↑バルサの角材を張り合わせて整形したエンジン・ナセル。マフラーは実機のブライマリー・エキゾーストの形状に合わせて6061ジュラルミンで製作。内部にバッフル2枚を組み込み、消音対策も万全だ。

B747-400

ボーイング747ダッシュ400

JALのニュー・カラーも鮮やかな本機は、日航が新規導入を予定しているB747-400を同社製備部のラジコン愛好家6名がチームを組み、スケール比20分の1で製作したもの。昨年11月の第3回RC航空ペーパージェントの会場にも展示されていたので、ご記憶の方も多いだろう。胴体は3mm厚胴枠に3~4mm厚バルサをプランク後、マイクログラスを張り、実機のウレタン塗料でカラーリング。主翼はバルサのリブ組み構造にスーパーモノコック仕上げで、製作期間は約3ヶ月。仕事がら実機の内部構造に知悉しているだけあって製作は手際よく進んだものの、胴体中央に積んだタンク位置に問題があり、予想外のエンジン不調に悩まされたという。その後はタンクを各ナセルの真上に1個ずつ埋め込んでこの問題も解消。現在、初飛行に向けて最終調整に入っている。



↑本機を製作したJALメカニック。
左から浮島正博、植木敏夫、安藤由
隆、多井修、上原義明の各氏。

→運搬はこの状態で…。胴体
はボルトで接合し、組立に
要する時間は15分くらい。



ラジコン技術

Radio Control Technique

創刊400号
特別企画

ノーコンとは何か? Part2

座談会・世界のビッグ4 栄光の軌跡!



- カルト「電動ヘリコプター」限りなくエンジン機に接近
- 「マックスレーザー」OS25搭載済準完成スポーツ機
- 「タイガーモス」高得点を得るスケール機作りのコツ
- 人気再燃1/8レーシングここに惚れてるmyマシン
- マシンを斬る!

103.43km/hを記録した電動マシン

1990
APRIL

電波実験社

4

ダッシュ400 ティクオフ!!



4月号の表紙を飾った日航B747-400 念願の初フライトに成功！

3月27日午後2時すぎ、OS91エンジン4基が吼えた。飛行場に到着してから実際に6時間が経過していた。翼内に1個ずつ埋め込んだグラス製の燃料タンクに不備があり、エンジン調整に手間取ったのが原因だ。滑走路をタキシングさせて様子を見る。今度は大丈夫そうだ。風上に向かって機体を走らせる。緊張の一瞬だ。滑走路離を長めにとり、エレベーター・アップ。機体は急角度で上昇。しかし失速の気配は見せない。ダクトファン4基が強烈なパワーで巨体を引っ張りあげている。やった、成功だ。周囲から歓声が上がる。70~80m上昇したところで左旋回。予想以上に安定した飛行振りだ。大空をゆっくりと2周してから着陸態勢に入る。風下で旋回し、ファイナル・アプローチ。一定の進入角を保ちながらゆっくりと下降、パイロットの目の前で、きれいにメイン・ギヤから接地（タイトル写真）。その瞬間、周りから「おめでとう」の声。機体が完成してから半年、製作に携わった日航の6人のメカニックたちの夢が、現実のものとなった。（本機は11月3日に行われる第4回RC航空ページントでフライトの予定です。）

●テクニカル・データ 全長3500mm 全幅3500mm 全備重量26kg（バラスト含） エンジン OS91VR-DF×4基 ダクトファン・ユニット ダイナマックス 燃料マッハ1（30%ニトロ） RC装置フタバFF-7（サーボ数10）

↓主翼中央部のようす。大きな荷重のかかるメイン・ギヤ取付部は、裏側から超硬ジュラルミンで補強。このあたりの工作はさすがだ。



↑燃料は16l缶から補給する。エンジン排気量は合計で60cc。1回フライトしただけで1ℓ以上の燃料を消費してしまうのだ。



↑飛行成功を喜ぶJALのメンバー。右端は飛行場所の確保に協力いただいた大西勇一氏。

Big is Beautiful

JALボーイング747-400

フライヤー…日航整備部



日本航空(JAL)のニュー・モデル、ボーイングB747-400が早々にスケール・ダウンされ、本誌'90年4月号の表紙を飾った。同年6月号ではテスト飛行の模様も紹介され、前回のRC航空ページェントにも展示された。これら一連のニュースは、読者諸氏もまだ記憶に新しいところと思う。

本機は、日本航空・整備部のRCモテラー6人がチームを組み、約3ヶ月で製作、その後半年の調整期間を経て飛行に成功した1/20スケール機。

テクニカル・データは、全幅・全長共…3500mm、全備重量…26kg(バラストを含む)、エンジン…OS 91 VR-DF × 4基、DFユニット…ダイナマックス。



昨年は展示のみだった日本航空の新型ジャンボ機、ボーイングB747-400スカイクルーザー。大観衆の注目を一身に浴びてみごとなティク・オフ！一瞬、会場全体から「オーバー」という感嘆のどよめきがわいた。同機も翼を振って観衆におひろめのあいさつ。全幅・全長が3500mm、全備重量26kg、OS91VR-DF 4基搭載の1/20スケールDF機。同社整備部のスタッフ6人が共同製作、その一人安藤由隆氏が操縦。

35,000人の大観衆にこたえた“ときめきへのアプローチ”

第4回RC航空ページェント

主催・株電波実験社／群馬県尾島町

●平成2年11月3日、昨年と同じ会場、群馬県新田郡尾島町の利根川河川敷で、35,000人を超える大観衆を迎えて、上記ページェントが開催された。好天のもと、“ときめきへのアプローチ”をメイン・テーマに、トップ・フライヤーの妙技やオリジナル・モデルなど、ビッグ・プレーンからミニ・プレーンまで、多岐にわたるジャンルのRCヒコーキ90余機が飛行、感嘆のどよめきがわくほど、大いに観衆を酔わせていた。



◀ 今回のシンボルマーク(左)と、会場入口に設けられた美しいアーチ。



関連記事は159ページとモノクロ写真ページに掲載



↑(左から)株電波実験社社長・増田勉、尾島町長・小出由友氏、(財)日本ラジコン模型安全協会理事長・鈴木久氏ら3氏の挨拶で開幕。

オープニング・セレモニー

↓オープニング・セレモニーの一つ、地元小学生によるゴム動力機の一斉ティクオフ。上記、小出町長や増田社長も仲間入りした。

